

夏休みの宿題お助けマン大活躍

しあわせの村、フルーツフラワーパーク、環境未来館で

最高200人の
参加者で大賑わい

副理事長 小林 将悟
生7-い 大掛 敏夫

こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)「夏休み自由研究お助け隊」が8月20日(日)に開かれました。子ども達に夏休みの自由研究を通じて、環境問題の興味を高めることを目指して企画されました。

今回は事前申込なしの自由参加でしたが、夏休みが終わりに近づいたこともあって、なんと過去最高の201人の親子の参加がありました。会場を5つのブースに分け 天然ガス自動車教室 草木染め教室 手作りおもちゃ教室 昆虫・水生動物・環境問題の相談教室 リサイクル工作教室で、子ども達は興味をもったコーナーで挑戦していました。



手づくりおもちゃの製作に一生懸命の親子たち

なかでも魚や鳥のモビールなどを木工細工で作る「手作りおもちゃ」やペットボトルを主材料にして風車、ビー玉落とし、ピンポンキャッチャーなどの工作「リサイクル工作」は朝から超満員の盛況でした。

また「相談コーナー」では専門の先生が子ども達の日頃疑問に思っている事柄や、虫の名前などを質問、正しい知識を身につけてもらいました。「草木染め」では玉ねぎの皮を染料にハンカチに色々な模様を染め抜いたり「天然ガス自動車」では天然ガスの

特性や地球温暖化防止に役立っている事などを勉強、もの作りの面白さやリサイクルの大切さに気づくきっかけになったようです。

昆虫探して標本作ろう

～親子で集まれ自然遊び塾～
生7-環 松本 恒司



落ち葉から出たカブトムシに大歓声

しあわせの村のピオトープ広場では“自然遊び塾・昆虫を探して標本作ろう”が、8月19日(土)で開催されました。この日はやや台風模様で

したが、それでも100人もの人たちが参加して下さいました。この催しも4度目になりますが、年毎に参加者が増えるのは嬉しい限りです。

なかでもハイライトは周辺の伐採木や、刈り取った草や落ち葉を積み上げた

“落ち葉バンク”をご開帳すると、今年も立派なカブトムシがいました。周辺の山ではバッタやトンボを採った親子たち、シルバーカレッジの裏山ではクワガタムシがいたと大騒ぎです。

午後から県立人と自然の博物館の大谷剛先生のご指導で、出来上がった手作りの標本を子ども達は大事そうに持って帰りました。この中から素敵な昆虫博士が誕生することでしょう。今後は昆虫たちがどんな所に、どんな暮らし方しているか、昆虫と人との関りを学ぶ機会があればと思います。

趣向を凝らした名札

独創的な絵の作品

生10-環 角南 貴義

夏休み真っ最中の8月12日(土)両親や祖父母に手を引かれた子どもたちが、フルーツフラワーパークの多目的ホールでグループわが主催する「夏休み工作づくり」に集まりました。5つのブースに分かれ、4時間にわたってそれぞれ趣向を凝らした催しでした。



(名札)

・木の名札・・・
自然木を材料に、こてを使って名札を作る。
・おりぞめ・・・

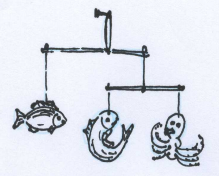
束ねた和紙を染料に浸け、きれいな模様のうちわを作る。

・パタパタ・・・5枚の板とテープを使った不思議な模様が見え隠れする。

・木のオモチャ・・・自分で絵を描き、木を切り、組立てる「登り人形」と「モビール」作り。

・”竹細工”・・・竹を鋸で挽いて、竹下駄とガリガリプロペラ作り。

などのブースも満員盛況で、子どもたちも親と一緒に入れ替わり立ち代り工作づくりに挑戦していました。



(モビール)

真っ赤な顔をして太い竹を鋸で挽いたり、独創的な絵を描いたり、形を作る子どもたち、うしろでハラハラしながら子供を見守るお母さんたちで本当に楽しい時間でした。



思い思いの作品の制作に熱中の親子たち

多くの参加者が自分の成果品を持って「ありがとうございました」と挨拶をしてくれたことで、疲れが吹き飛んでしまった気持ちでした。この日は雨にもかかわらずお助けマンのおかげで、子どもたちと共に大変有意義な時間を過ごすことができ、普段体験できない素晴らしい授業でした。